

道路ができたら、鷹の台の自然と生きものはどうなる？

—生物・生態系について—

東京都も「市街地の中の貴重な緑」と評価

環境影響評価書案は、小平グリーンロードとして市民に親しまれる玉川上水緑道と、小平中央公園の樹林地 12,700 m²*について、この地域に特徴的な樹林環境であり、「市街地の中の貴重な緑」とであると評価しています。また、特に玉川上水沿いの帯状の緑道は、周辺に点在する緑地を結び、動物の移動経路となっており、繁殖行動の多くは樹林地内で行われていると認め、樹林環境の多様性を維持するために「可能な限り」対策すると書いています。

*樹林地のうち約 7600 m² (約 51%) が公園敷地内、残り約 6500 m² (約 49%) が道路予定地で、公園に隣接。調査では樹林地全体で 785 本の樹木を確認。

都は、注目される種に選んだ植物については (表 1)、「可能な限り移植等の措置を講じる」としていますが、移植が困難といわれるこれらの植物を、実際に移植してうまくいった事例はあるのでしょうか？ 鳥類についても注目される種を選んで調査していますが (表 1)、調査対象と期間が限られる調査では、生態系全体の多様性とつながり、渡り鳥等 (例：毎年初夏に玉川上水や中央公園樹林地で休息するオオルリ、キビタキ、センダイムシクイ等)、調査から漏れることも多いのではないかと疑問です。

ヒグラシが注目される種とされていますが、今夏、どんぐりの会が行ったセミの抜け殻調査では、中央公園の樹林地で、アブラゼミ、ヒグラシ、ニイニゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシの 5 種類の抜け殻を確認しました。都心では少なくなったヒグラシの抜け殻が、この林では全体の 5% (53 個) を占めたことは、ここの自然度の高さを示している、自然観察員の方からコメントをいただきました。

表 1：環境影響評価で確認され、注目される種に選定されたもの (一部)

- 〈植物〉 アスカイノデ、アイアスカイノデ、キツネノカミソリ、キンラン、ギンラン、ササバギンラン、マヤラン、フクジュソウ、ニリンソウ、ククザキイチゲ
- 〈鳥〉 コサギ、ツミ、カッコウ、アオバズク、セグロセキレイ、モズ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ
- 〈昆虫〉 ヒグラシ、ヒラタクワガタ、キマダラカミキリ

481 本もの木が伐採されるって本当？

評価書案は、「既存樹木を可能な限り環境施設帯等に残す」とくりかえします。そこで、実際にどれだけの木が伐採されるのかと思って調べると、中央公園に隣接する樹林地で 277 本、玉川上水緑道で 113 本、玉川上水水路法面で 91 本、合計 481 本の木が、伐採予定とされていました (環境影響評価書案資料編「廃棄物」より)。

4車線の道路が通り、これだけの木が伐られるというのに、「可能な限り」の対策で、環境への影響は小さいとくりかえし結論づけるところに、まさに、環境影響評価の結論ありきの性格が表れています。

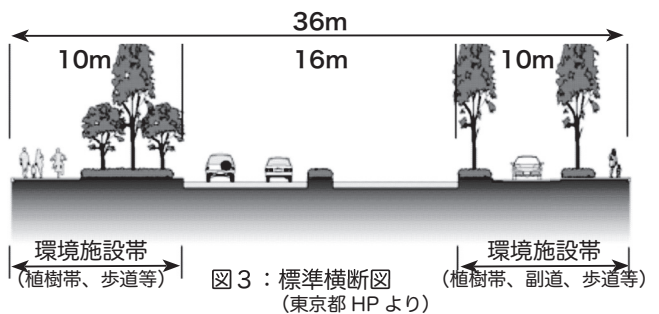


図 4：玉川上水が 36m 幅の道路で分断され、樹林地が削られる。
「環境影響評価書案」より